見る，聞く，気持ちが動く

D-2-2

感情で見え方が変わる

ー 感情と認知の相互作用 ー

どんな研究？

- 感情は普段から私たちの行動を大きく左右しています.
- その感情が単純な映像の見え方さえも変えることが分かってきました.
- それによって私たちが心に抱く感情の役割とメカニズムに迫ることができます.

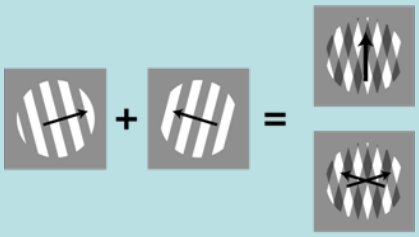
もたらされる変革

- 単純なパターンの見え方から人の感情の状態を推定することができるようになるかもしれません.
- 自分の気持ちのコントロールを手助けする手法の開発にもつながります.

「うれしい」「悲しい」「こわい」「好き」「嫌い」「不安」・・・
私たちの行動はその時々の感情に大きく左右されています.
しかし感情がどれくらい私たちに影響を与えているのか，まだはっきり分かっていません.

例えば，感情によってものの見え方が変わることはあるのでしょうか.
二つの縞模様が動く映像を観察する実験を行いました.

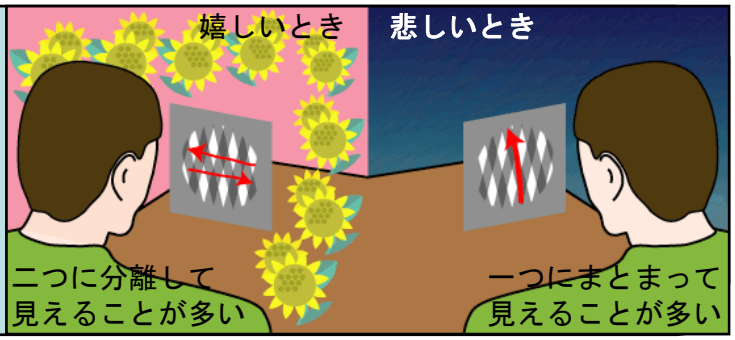
左右に動く
二つの縞模様を
重ねると



一つの格子模様が
上に動いて見えたり
あるいは
二つの縞模様が
左右に動いて見えたり

「嬉しい」気分のときや「悲しい」気分の時にこの映像を観察すると

これまでに経験した「嬉しかった」出来事，あるいは「悲しかった」出来事を思い出してもらいます.



ポジティブな感情は複数の対象への注意を促進し，ネガティブな気分は一つの対象への注意の焦点化を促進する可能性があります.

ポジティブな感情の時にはいろいろなことに興味が持てるのに，ネガティブな感情の時には，一つのことをずっと考えていたりします．そのような傾向は単純な映像を見る際にも当てはまるのかもしれません.

北川智利

柏野牧夫

関連文献

Suzuki, Kitagawa, Koizumi & Kashino, Emotion biases which you see in a bistable motion pattern. European Conference on Visual Perception, 2008.
北村, 北川, “感情が彩る知覚世界” 知能と情報（日本知能情報ファジィ学会誌），**20**，pp. 303-313，2008.

連絡先: 北川智利 (Norimichi Kitagawa)
人間情報研究部 感覚情動研究グループ